資料２－１

第2回今後のひきこもり支援に関する検討会

ひきこもり支援に係る現状と課題　～委員の意見から～

	項目	課題	委員意見
方向性	基本的な方向性	・ひきこもりに係る共通認識を持つ必要性	【第1回検討会で出された意見】 ・「ひきこもり」状態がダメではない。（支援者の意識変容が必要） ・「ひきこもり」は自己責任でなく社会全体の課題。 ・「人と関わらない」生き方があってもよい。 ・支援者の中にひきこもり支援に対する共通認識が必要。
相談窓口	明確化した相談窓口の設置促進と周知	・相談窓口がない、分からない、繋がらない	【事前提出意見】 ・ひきこもりの相談窓口が分かりづらい。 ・利用しやすい相談窓口を作る必要がある。
			【第1回検討会で出された意見】 ・市町村の相談窓口と活動内容の周知がなされていないと「明確化」とはいえないのでは。 ・保護者等に相談窓口の情報が伝わっていない。
支援体制	本人・家族に寄り添える支援体制の構築	・ひきこもり支援を担う人材・支援機関の不足	【事前提出意見】 ・訪問等の活動をおこなえる機関が少ない、又はあっても高額。 ・家庭訪問支援の経験のない保健師さんや、市町村でその保健師さんをサポートする体制が無い。 ・民間の団体は資金的に持続的運営は困難。
			【第1回検討会で出された意見】 ・ひきこもり支援はオフィシャルな社会資源につなぐことだけが目的でない。海に浮かぶブイ（インフォーマルも含めた支援の手）が多くあることが重要。 ・なにかあったら頼れるような支援者の数を増やす必要がある。 ・民間支援機関や人材の支援・育成が必要。 ・ひきこもりサポーターの活用。 ・1回相談しても「様子を見ましょう」で終わってしまうとその後に繋がらない。
	継続的な支援の必要性	・支援の段階を理解し、長期的な視点を持った支援ができていない。	【第1回検討会で出された意見】 ・伴走的な支援を行う人材・機関が少ない。 ・ひきこもり支援の段階を理解した、体系だった支援になっていない。 ・本人に会うまでに大変な難しさがありそのためには人材、末永く支援して行く覚悟が必要。

	項目	課題	委員意見
人材育成	人材育成	・相談員等のひきこもり支援に係る理解や育成の機会が不足	【事前提出意見】 ・ひきこもり支援をする人たちを育てていく時間的・金銭的余裕がない。
			【第1回検討会で出された意見。 ・支援者は、成功事例を通してかかわり方を学ぶ機会がほしい。 ・支援者がひきこもり支援の経過に精通することが必要。 ・支援者側も働くことをゴールにしがち。 ・本人起点の支援の必要性。 ・本人、家族の気持ち、ニーズをくみ取る、本人主体の支援が必要。
関係機関との連携	早期からの予防的な支援	・ライフステージを通した支援に係る連携不足	【事前提出意見】 ・早期対応のほうが社会的自立につながりやすい。小中学校からの連携した支援が必要。 ・中学校からの支援、義務教育終了後年代へのアプローチ(高校訪問）といった予防的介入。
			【第1回検討会で出された意見】 ・学校との情報共有に課題がある。 ・予防的な支援の推進が重要。 ・早期に対応する方が社会的自立につながりやすい。 ・学校の教育的支援の範疇を超えた成人期のひきこもりの支援体制のつながりが課題。
	関係機関との連携	・地域の関係機関によるチーム支援の促進が必要	【事前提出意見】 ・専門的なチームアプローチが必要。 ・重層的な支援としてひきこもりの支援について連携して欲しい。 ・医療・心理、福祉的支援を絡めた重層的な支援体制になりにくい。 ・医療機関や支援機関とつながっていない。 ・関係機関との情報共有や連携が必要。 ・外部関係機関も含むプラットホームの設置。 ・教育、職域(産業保健）、介護保険、福祉・保健・医療、地域、民間の力等の連携が必須。
			【第1回検討会で出された意見】 ・様々な人や機関が関わるチーム支援が重要。 ・1回の相談からその後に繋がっていかない。 ・本人を医療につなげることが難しい。 ・地域包括支援センター、教育委員会、福祉担当課の連携による切れ目のない支援が重要。 ・福祉分野と就労分野の支援機関の連携。

	項目	課題	委員意見
支援の場づくり	本人の居場所や社会参加の場づくり	・身近な地域における居場所や社会参加の場が不足	【事前提出意見】 ・居場所で人間関係を体験する必要があるが、居場所が極めて少ない。 ・居場所づくりと社会参加の機会を作るために、どのような仕組みや環境が必要か考え、取り組んでいきたい。 ・社会生活や社会経験の不足による、自己理解の未熟さや自己肯定感の希薄さによる社会的自立への困難さ。 ・居場所や継続的な支援をできる機関が少ない。
			【第1回検討会で出された意見】 ・受け皿としての居場所は重要。 ・「居場所」の共通理解（精神的な居場所、物理的な居場所）がされていない。 ・居場所の中にも学びも必要。 ・本人の居場所や継続的に支援できる機関が少ない。
	家族の交流の場づくり	・身近な地域における家族会等の設置促進・運営支援が必要	【事前提出意見】 ・親の会は、「ひきこもりの子どもを抱える親は自分だけではない」という共感の場所として大事な支援。 ・ひきこもり家族教室では、ひきこもり状態にある方を支える要である。しかし、情報提供が多くなってしまい、実際にどの様にしたらいいのか具体的な手法が伝わりづらい状況にある。
			【第1回検討会で出された意見】 ・親の会への継続した参加促進が必要。 ・父親の支援への関りが少ない。
理解促進	ひきこもりに対する理解促進	・家族や地域のひきこもりや支援に対する理解不足	【事前提出意見】 ・ひきこもり支援が就労支援に置き換わってしまうところや、そうした世間の価値観。 ・ひきこもりの人の支援の目指すところは何か。家から出られるようにするということではないと思う。 ・多様性を認め合う社会の実現というベクトルの方向（社会のあり方を変える方向）。 ・周囲の理解がなく、親戚等から子どもがひきこもり状態である事を親が責められる現状。 ・ひきこもり支援に時間を要することへの理解を得ることが難しい。
			【第1回検討会で出された意見】 ・支援者がひきこもり=ダメという目で見てしまい、支援を受けづらくなる。 ・本人支援、家族支援・社会への働きかけを分けて考える必要がある。（それぞれのひきこもりに対する理解促進）。 ・支援の目標を家から出ることにおいていいのか。 ・「ひきこもり支援=就労等の社会システムにつなぐ」　となっているが、そうではない。 ・ひきこもりを知られたくない、地元へ相談にいけないという家族がいる。 ・働いて欲しい家族と本人の気持ちの乖離。